第１０回　多摩市自治推進委員会　要点記録

日　　時：令和８年６月２９日（月）　１９：００～２１：００
場　　所：永山公民館　視聴覚室
出席委員：白鳥光洋委員長、長野基副委員長、中島ゆき委員、牛腸哲史委員、山田寛子委員、
　　和田あずみ委員
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：一般社団法人コミュニティネットワーク協会 渥美京子理事長、中央大学国際経営学部 中村
　　大輔教授、合同会社ＭｉｃｈｉＬａｂ 高野義裕代表
事 務 局：小形協創推進室長、鈴木次長、菊池担当主査、永田、ウィエック、大越
傍 聴 者：１名

議事次第：配付資料「第１０回　多摩市自治推進委員会　議事次第」のとおり

１　開会

委 員 長　　第１０回第九期多摩市自治推進委員会を開催する。
　　まず、事務局から資料の確認をお願いしたい。
　　事務局より、配付資料の確認を行った
委 員 長　　次に、第９回委員会の要点録の原案について、修正はないか。
　　修正はないようなので、これで確定とする。

１　協創の実現に向けた取組み・検討状況報告

委 員 長　　まずは、次第１「協創の実現に向けた取組み・検討状況報告」について、事務局から報告をお願いしたい。
　　事務局より、資料２６、参考資料１、２に基づき報告
委 員 長　　続けて事業に関わっているオブザーバーからそれぞれのエリアでの活動の報告や今後の進め方についてご発言をお願いしたい。
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　資料２６の７ページの補足として、次週開催予定の協創ミーティングはエリアミーティングの上位層という位置づけで行っている。協創ミーティングは地域で既に活動している方々に集まってもらい、さらなる地域の課題解決に向けた取組みを行っていくという趣旨で開催するものである。今年の２月に開催した前回のエリア・協創合同ミーティングで高校生が提案してくれたタグラグビーを地域で行い、小学校に行きづらい子供たちに体を動かすイベントの提供をしようという案がある。７月４日の協創ミーティングは、このような案をできたらいいなというアイデアだけで終わらせず、実現に向けて取り組んでいきたい。また、協創ミーティングへの高校生本人の出席確認や、タグラグビーの開催場所として体育館を使うことも放課後子ども教室の担当者から許可をもらうことができた。
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　諏訪地区について補足説明をすると、まず、６月１４日にエリアミーティングを実施したが、令和８年度第１回ということにはなるものの、実質的には令和７年度の続きである。今回は新たに無作為抽出をしたわけではなく、今までの関係者に声をかけて実施した。昨年度のエリアミーティングで出てきたアイデアで、「シャボン玉でみんなで遊ぼう」とい

う企画が５月のすわ新緑まつりで実施され、約３００人の参加があり、イベントとして成功した。また、すわ新緑まつりでは、昨年度のツナたま補助金に採択された「諏訪永山れきし散歩」も今年度第１回目のイベントを開催した。また、昨年度のエリアミーティングでは「団地見隊」という新しいチームが結成され、今年度第１回のエリアミーティング後に UR の協力で永山団地で取り壊されようとしている棟を見学させてもらうという企画を実施した。今ある姿を写真などで残そうという趣旨で行った企画であったが、比較的若い参加者が UR 賃貸に住んでみたいねという意見で盛り上がるなど思わぬ効果も見られた。今年度第１回のエリアミーティングでは、全部で４グループが作られ、現在アイデアをもとに動いている。１グループ目は花火を使った企画、２グループ目は日本酒を使った企画で、ツナたま補助金を活用して実施したいと話している。３グループ目は、あそびを通した世代間交流を行う企画。残る１つのグループは、中学校のあるイベントが「担い手がいない」という理由で終了したことを受け、担い手が実際に存在しなかったのではなく、事前に相談があれば対応可能であったと考え、地域側から主体的に働きかけを行い、本イベントの復活を目指した企画を動かしている。次回のエリアミーティングは来年２月を予定しており、引き続きエリアミーティングから出た企画の伴走支援を続けていきたい。

委 員 長　いろいろな取組みや新たな課題の発見といった状況の把握ができた。ここまでで何か質問はあるか。

委 員 長　協創サポーター制度でマッチングを現在行っているとのことたが、地域と受け入れ先をどこにするのかということをマッチングしているということか。それとも市の職員間で調整しているということか。

事 務 局　基本的には、市の主催事業やコミュニティセンターのお祭りを対象に庁内で調整を行っている。

委　　員　資料２６の５ページで、令和８年度の協創サポーターの継続者は５名となっているが、以前は１７名とか１０名とかいたことを考えると少ないのではないか。これは想定通りだったのか、５名が良いことなのか悪いことなのか、背景を知りたい。

事 務 局　前年度は、令和５年度以前入庁の職員を対象としていたが、今年度は令和６年度に入庁した３年目職員３４名を対象として、継続の希望者が５名集まったという背景である。対象が異なるため、前年度との比較は難しいが、この５名からは積極的に地域のイベントなどで何か協力できることはないかという声をもらっている。

委　　員　前回は興味のある人たちを募っていたということか。

事 務 局　そのとおりである。

委 員 長　ツナたま補助金のツナコースは審査があるのか。

事 務 局　審査は行う予定である。明日が申込期限であるため、明日の状況次第ではあるが、相談ではツナコースからたまごコースにシフトするものもあり、場合によってはツナコースのエントリーがない可能性もある。

委 員 長　４ページ目の１番下に項目として「地域共助を可視化できるツール」が入っているが、市として補助金以外で実施する方法はあるのか。

事 務 局　今年度は補助金の対象としていたことから別建ての予算は持っていない。しかし、来年度以降は今回のエントリー状況を踏まえて検討していきたい。また、補助事業で始めた後、

横展開として地域を広げていったときに、継続的な補助を続けていくのかという点も考えていく必要がある。

委員長　地域通貨の話も出てきたが、健幸ポイントなども多摩市で取り組んでおり、ツールとして可視化するという点では近いため、組み合わせていくといった手法もあるのではないか。

委　員　なぜ可視化する必要があるのか洗い出したほうが良いと思う。提案がない理由としてイメージが湧かないという可能性が考えられる。

事務局　オブザーバーからの話でもあったが、人手が足りないという理由で行事が消滅してしまったものの、うまく呼びかければできたといったような話もある。活動と人をうまく結びつけることのできる仕組みも一種の共助の可視化ではないかと考えているところである。

委　員　ツナたま補助金の募集期間を延長する選択肢はないのか。

事務局　募集を延長することは考えていない。

副委員長　協創サポーターについて、継続職員が少ない理由として、職場３年目で辞めてしまうということが民間企業であるように、３年目職員の退職者が多く出ているため母集団が減ったということはないのか。

事務局　確かに採用後数年で退職をする職員は近年増えているが、３年目の層に退職者が特に多いということはないと思う。３４人から減ってはいるが、今回は任意継続であり、３年目職員は仕事もわかってきて、任される仕事も増える時期でもあるため、忙しくなり継続が難しいという一面もあるのではないかと思っている。

委　員　協創サポーターを希望することのメリットやデメリットは具体的にどのようなものなのか。

事務局　昇任試験でプラスになるなどのメリットはないが、活動を通じてコミュニケーション力を磨き、積極性を発揮していくことができれば、普段の業務でもプラスに働くのではないかと考えている。

委　員　継続した５人というのは、新卒の人が多いのか、それとも社会人経験を経て入庁した人が多いのか。

事務局　半々ぐらいである。

委　員　本人の性格次第ということか。新たに配属された人は、何年間その部署に在籍するといった決まりはあるのか。

事務局　決まったルールがあるわけではないが、一般的には１０年３か所といわれている。

委　員　それは新卒でも経験者でも同じように適用されるのか。

事務局　同様に適用される。しかし、実際は組織全体の調整から２年で異動する職員もいれば、６年間同じ部署にいる職員などもいたりする。

委　員　３年目で継続している職員のサポーターとしての立場はどのようなものなのか。同じことを３年目に行うのか、リーダー格になるのかなど、そのようなイメージがあればキャリアパスにもつながるのではないかと思う

事務局　継続者の立場変更は特に定めていない。ただ、市民と一緒に活動する機会がない部署も多くある中で、１年目と２年目の研修で協創サポーターを経験することで、今後の役所人生を見据え、市民との関わりに慣れることができたり、若いうちにつながった人とまた異動後にお世話になることもあったりといったプラス面もあることから、早い段階から実際に

地域に出てもらう形にしている。そこから、本人が自身の成長のためにいかに経験を活かしていくかは、配属された部署や異動先などによりそれぞれで異なってくるものである。

委　　員　　せっかく立ち上げた制度なので、毎年同じことをしているが、この先どうするのか考えてもらいたい。継続者は増やすのか、逆に入れ替わるほうが良いという計画なのか、あまり見えてこない。

事 務 局　　こちらの意図しないところで、この協創サポーター活動をきっかけに職員が一市民としてコミュニティセンターの運営協議会の委員になったという例がある。組織として、市にそうした職員がいるというのは非常に大きい価値があると考えている。

委　　員　　製薬会社でも患者さんの生活を見に行くような研修も実施しており、改めてこのような活動は評価が難しいと思った。このような研修によって、患者さんの生活、市民の生活というものを複眼的に理解することができる。理解して業務にそれが直結するか、というとそういうわけではないが、会いに行って話を聴いたという自信がモチベーションにつながるだけでなく、複眼的な視点を持つことができたということ自体がそこに勤めている人生の中で価値があるのではないか。私の経験則では最後まで粘れる人は、やはり患者さんにきちんと向き合ってきた人である。ここにコスパのようなメリットを求めるのは難しいのではないか。

事 務 局　　協創サポーター制度は、ある程度長期的な視点で職員を育成する取組みと捉えている。

委 員 長　　協創サポーターを継続していることが、ストレートに評価されるとまではいかなくとも、その職員の能力の向上や積極的な態度が当然のプラス要素として、相対的には良い評価になるといいのではと思う。

委　　員　　相対評価もそうだが、先輩が行っていたらしいなどのコミュニケーションがきっかけになって継続する人が増えたらいいのではとも思う。

委 員 長　　部署によっては地域と全然関わる機会がないまま仕事する人もいる中で、こういった機会を全員に提供していること自体が多摩市らしい文化みたいになるのではないか。全員が全員ずっとやりたいと思わなくとも１００人に１人ぐらい成功する人がいればよいのではないかという発想もあるかもしれない。

委　　員　　今、委員長がおっしゃったように、多摩市が協創サポーター制度をやっていることは、日本でも珍しいケースだと思われるため、 多摩市らしさは育つのではないだろうか。

事 務 局　　先ほど離職の話もあったため補足すると、市長は協創サポーター制度について受け入れ先に話をする際には、「地域の人と顔の見える関係ができると、職員の離職に歯止めをかけるという意味でも効果はあると思うので、皆さんも温かく迎え入れてください。」といった形で話をしている。

２　諮問事項に関する意見交換

委 員 長　　続いて、次第２「諮問事項に関する意見交換」について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局より、資料２７に基づき説明

委 員 長　　質問等あるか。

副委員長　　１０ページ、１１ページの地域福祉計画におけるアンケート調査結果を見ると、意外と後継者育成ができているという印象である。

委　　員　１２ページの子ども・子育てに関する計画策定に係るニーズ調査結果は、対象が児童扶養手当受給世帯であり、いわゆるひとり親世帯でそもそも地域のプレイヤーとして出てきづらい人であり、あまりヒアリング対象と一致しづらい人のデータになっているという認識でよいか。

事 務 局　出典が子育て世帯の生活実態を調査するものであり、対象が児童扶養手当受給世帯ということでは時間的余裕がない人の実感が表れたデータになると思う。

委　　員　ヒアリングの実施結果は９月には出る想定か。

委 員 長　事務局がプレイヤーを回った結果について９月に報告してもらい、そのうち主要な人には次回の委員会にも来てもらって話を聴くというやり方もあり、どういった形が望ましいか。

委　　員　想定としては何件くらいのイメージか。

事 務 局　７月と８月の２ヶ月しかない中で、その間にお盆の時期もあることを考えると、全てのプレイヤーにというのは難しく、８ページで示している分野別で言うと２人ずつ出来ればと考えている。

委 員 長　同じ人がいるケースもあるのでは。各分野にまたがって肩書きを持っている人に聴いたらいいのか、肩書きのない人に聴いたらいいのか。

委　　員　このヒアリングの目的は何か。

事 務 局　一つは、活動分野によって変わってくるかと思うが、貝取・豊ヶ丘地区における地域課題を把握することである。ここは、今後生活サービスのメニューを検討する際のヒントになるものと考えている。さらには、指定地域共同活動団体に関する議論の中で、事務局機能や活動費に関するものが出てきたかと思うが、活動費をどう賄っているかなどの実態も把握していきたい。また、一番大きいのは、協議会型プラットフォームの部分である。活動している団体の課題の部分において、役員の重複や負担が増えていることがある中で、協議会型プラットフォームは一歩間違えると、屋上屋を架すことになりかねない。そうならないよう、ヒアリング対象の方々がどのような枠組みであれば参加してもらえるのか、中期的に考えていきたい。今活動している人の中には、元気なうちは自分が頑張ろうと思っている人も多く、その先に向けて将来的にプラットフォームを作っていくという擦り合わせをしていかないとなかなかプラットフォームという組織を作っていくのは難しいと考えている。その上で、年度内に１回皆さんで集まる会議の場を持ちたいと考えている。

委　　員　ヒアリング対象が抱えている課題に対し、解決の糸口を見出していくのがプラットフォームであるべき。その点をヒアリングで聴き出して欲しい。

委　　員　課題を聴き出した後、どうしていくのか。具体的な課題は人によって違ってくるかと思うが、ここが一番ネックになっているといった共通するクリアすべき課題をどう分析していくか。ヒアリングの結果分析をどのように進めていくか。

事 務 局　正直まだ手探りの状況ではあるが、恐らく人材確保の課題が出てくるものと想定している。それについては、多活動マッチング型で掘り起こした人たちが団体に入るかというと、そうしたニーズはあまりないと思われ、そうした地域活動している人と団体とを結び付けられるかどうかといった部分が論点となるか。また、人材難といっても実際に呼び掛ける手立てがないといった部分。その辺りをどう進めていけるかを検討・想定して、皆さん集まって議論という方向に持っていくイメージである。

委 員 長　協議会型プラットフォームと言われて、聴かれる方は分かるか。

事 務 局　説明は必要だと思っている。協力・連携の枠組みと言っただけでは今までと何が違うのかという部分があると思っている。多活動マッチング型と協議会型の二層でのプラットフォームを模索していこうと中間答申でもいただいており、そこを掘り下げていくためのヒアリングになると考えている。

委 員 長　法律で示された指定地域共同活動団体制度については聴かなくてよいか。

事 務 局　これまでの議論の中でも出てきているが、最終的にそこも意識しながらという部分はあるが、それありきではないと考えている。

委 員 長　多世代共生型コミュニティ施設に関わりがありそうな団体に聴くというのもあるのでは。また、役を沢山持っている人にどの程度困っているか、どの程度減らしたらいいのか聴くというのがあるのでは。

委　　員　１４ページの申し送りの内容について、どの段階で出てくるものなのか。ヒアリングした結果をどういった方向に持っていくのか、申し送りの内容をどう確認するか。その辺りのスケジュール感はどうなっているか。

事 務 局　ベースには１２月の中間答申があり、協議会型プラットフォームを立ち上げていく上での課題を詰めていきたいと考えている。なかなかこうすべきというものを出していくのは難しいかと思われるので、協議会型プラットフォームの運用に向けた課題出しを進めていきたい。次回の９月はヒアリングの結果報告になるので、最後の１１月に１回で取りまとめたいと考えているが、その際は、会議の場以外で事前に調整させてもらい、１１月の委員会で最終確認してもらう形になろうかと思っている。

委 員 長　中間答申の際も、委員会の後にメールでやり取りをした経緯があるので、同様な形でよいかと思う。今回は答えを出す出さないといったものではないかと思う。

事 務 局　実践の部分については、オブザーバーの皆さんに参加してやってもらっている多活動マッチング型の積み重ねはあるが、協議会型については３月に初めて皆さんを集めてやってみるということで、第九期の中では書き込みづらいと考えている。

委 員 長　次回ヒアリングを実施するのであれば、ここで決めておいた方がよいか。

事 務 局　肩書きを持っている人がよいのか、この分野はこの人がよいといったものがあれば、次回の日程も本日決定するので、そこを含めてアプローチしていきたい。

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　貝取・豊ヶ丘地区においては、他地区と比べて自治会・管理組合の存在感が大きい。若い人がいないという課題の共通項はあるとしても、団地ごとに課題の要因が異なっていると感じる。うまくイベントを実施して地域外から若い人を誘い込んでいるところもあれば、何もできずに管理組合を縮小する方向に動いているところもあり、自治会・管理組合に限っては、全てにアンケートをとって分析した方がよいのでは。

委　　員　今やっていることについて、どこを着地点とするのか。第７回の資料の１８ページに、第九期後半に議論を進めることの記載があるが、ここに今いるという認識でよいか。団体に何を確認したいのか、この多摩市版地域プラットフォームのあり方についての部分か。

委　　員　私の理解では、第九期ではまだ結論としてアンサーをクリアに出せるのは難しいだろうという前提に基づき、貝取・豊ヶ丘地区の活動をベースに地域課題を捉えていこうということなので、恐らくここまでは把握できたが、この先は第十期に引き継ぐといった形になる

ものと思っていた。実際に調査してみると、何がやれて何がやれなくて、継続してやらなければならないことなど次の活動が見えてくると思うので、今の段階では全ては見えないのではないかと思っている。

委　　員　そうすると、今、中間答申に盛り込んだ「多摩市版地域プラットフォームのあり方について」の部分について、モデルエリアで協議会型プラットフォームを試行的に運用して、課題を洗い出すというところをプレイヤーに聴いて、運用していこうというフェーズのイメージでよいか。この人たちに参加してもらうというのが前提ということで。

委　　員　試行的に運用というよりは、インタビューしてみるというイメージでは。

事 務 局　年度末の会議がキックオフになるのか、まだはっきりしていないが、皆さん一堂に会してという部分をまずは年度内にやっていきたい。

委　　員　こんなことを考えているので、協議会型プラットフォームのモデルとしてやってみませんかというのを活動している皆さんに投げるということか。

事 務 局　そのとおりである。走り出しはまだ先である。

委　　員　中間答申においては、協議会型プラットフォームの試行運用を実施していくということになったが、とりあえずやってみようというよりも、やるからにはやった成果や、やったことでさらに課題が見えるといった試行をしなければならない。そのための材料集めや注意点を確認するということではないか。ある程度この辺は答えが出るだろうとか、この辺はやってみないと分からないだろうとか、いくつか確認すべきことを重ねておいて、こういったことをやりたいと考えているので、ヒアリングやプラットフォームの試行に参加してもらえないか、といった問いかけになるのではないか。

委　　員　そう考えると、協議会型プラットフォームに参加してもらいたい団体はお馴染みの面々になりやすいことから、そうでない人も参加できるようなものにした方が良いのではないか。このラインアップを最初に見たときに、本当にこの人たちなのかという印象がちょっとあったので、地域のキーマンとして活動している人だけでなく、最近活動を始めたばかりの人たちの話も聴かないと今回の協議会型プラットフォームの試行的運用にはもったいない気がする。

委 員 長　リストアップされている人以外にもアプローチする必要があると。

委　　員　すべての人にヒアリングをというのは難しいかと思うが、協議会型プラットフォームの試行運用の際には、高野代表のような中間支援団体や、無作為抽出のエリアミーティングで事業をやってみたいというような人たちを集められるとよいのでは。加えて言うならば、協創サポーターにも入ってもらうと、様々な目線・角度から話が出てくるのではないかという気がしている。

委　　員　この感じでは他の会議体と何が違うのかと言われかねない。

事 務 局　おっしゃるとおりである。既に肩書きがある人を集めて、一言ずつしゃべるようなことをやっても今までと何も変わらないし、肩書きとしての意見しか出てこないだろうなと思っており、やり方は考えていきたい。エリアミーティング発で地域で活動している人なども交えて、腹を割ってこの地域をどうしていこうかみたいなことを話せるような、そうしたキックオフのきっかけの会議にできたらよいと考えている。

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　資料には、青少協と地域福祉推進委員会がないが、それはもう飲み込む前提ということか。

事 務 局　ここは肩書きのあるプレイヤーのみを書いているものである。

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　割と青陵中学区は、若い人が元気にやっている。

委　　員　若い人たちも含めて声掛けをして年度末に試行運用をやると。その場である程度バラエティに富んだメンバーが集まればよいのでは。

事 務 局　そのとおりである。その辺は申し送りとしてまとめるかどうかは別として、年度末に実施する際には、その辺も踏まえて集めたい。

委　　員　申し送りをするのであれば、その辺りをお願いするということなら、いい宿題になるかもしれない。

委 員 長　貝取・豊ヶ丘地区全体をおしなべて対象にするというイメージでよいか。

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　青陵中学区なので、南野も一部含まれている。

事 務 局　エリア設定としてはそのとおりである。

委　　員　小学校区ごとにも地域特性はあることから、アンケートを実施するのであれば、ここに挙がっている全てのプレイヤーに対してアンケートをした上で、いくつか抽出してヒアリングする方がよい気がする。

委 員 長　時間的には、アンケートとヒアリングをパラレルで進めないと間に合わないのでは。

委　　員　先にアンケートを実施するけれども、数量的には抑えた上で、外せない人はいると思うので、試行運用の段階で、アンケート結果をベースにヒアリングしていくというのもあるのでは。また、聴き取り調査みたいな感じでやりつつ、アンケート以外の自由記述的な部分をヒアリングするというやり方もある。

事 務 局　今お話いろいろと聴かせていただいた中で、例えば重複している方は、普通に地域で様々な活動をしている立場として感じている課題と、実際その肩書きのついている組織の課題とが恐らくそれぞれあると思われる。まさにその重なってやっている方のうち、何人かはうちともつながっていることから、そうした方にちょっとプレヒアリングのようなこともしていきたいと考えている。

副委員長　この調査に関しては、謝金が出ない中で、どれだけ負担をかけるか問題がある。今回の調査は、中間答申のある種仮説をどのように微修正かけていくかということが、大きな役割であり、仮説を検証するためのヒアリングであると感じている。一方で、見落としていることもあるかもしれないことから、面的な調査も重要である。ただ、ヒアリングの数はそんなに多くなくてもよいのでは。むしろこういったイメージを持って政策オプションを考えており、ここまで考えてきたものについて、実現可能性があるかどうかというディスカッションをしたいということであり、９ページのヒアリング内容は、紙面でお願いした方がよいのでは。

委　　員　アンケートとヒアリングでやり方の方法論になってしまうが、書面である程度撒いて、そのうちここをもっと聴いてみたいという人にとか、管理組合とか性質によって、この質問は A さん、こっちは B さんなどとそれぞれ代表者を決めれば聴く人数を絞るヒントになったり、深掘りする効率としてもよいのでは。

委　　員　これまで地域の課題となりそうな資源は洗い出していることから、そこに関わる活動や課題はある程度見えているのでは。

副委員長　ツナたま補助金を活用した人の顔ぶれを思い出すと、永山の方で飲食店をやっている音楽

関係の方などがいて、先ほど新しい風を吹き込む方というような話もあったが、そういった方へのアプローチも必要ではないか。貝取・豊ヶ丘エリアにそうした対象の人がいるのかどうかは不明だが。

委　　員　　１０ページの過去のアンケート自体も６３３件の地域活動団体にとっているということだが、地域ごとに分けてまでは把握できていない。ヒアリングやアンケートを実施することが目的ではなく、逆に言うと、ヒアリングの実施を急ぐよりは、その課題と地域でこんな活動をしている人たちのマッピングができることの方が先にあってもよいのでは。この辺の地形の高低差で買い物難民に対して何かやっているのかなど。このままではアンケートの質を上げるのは難しいと感じる。

委　　員　　全てウォーターフォールに考えなくてもよいのではないかと思っている。この辺りで本業として動いている飲食店の店主とか、最初に全員を揃えてマッピングしていき、ここから選びましたというのはすごく美しいストーリーだと思うが、他方で、時間の制約がある中で、行政のいいところは地域に根付いて改善していける、多少アジャイルにでも改善していけるという柔軟さだと思っているので、やりながらというところでは、このタイムラインでも現実的だと感じている。限られた時間と人のリソースの中でできることをやって意思決定をし、次の活動へというのは民間企業でも同様である。

委 員 長　　３月にキックオフをやろうとすると、いずれにしてもプレイヤーに会っていく必要があることから、１００％を求めずに、走りながら進めるということも必要だと感じる。

委　　員　　一堂に会するというよりも、５，６団体程度集めて集団タウンミーティング的なものを開いてヒアリングを実施し、１回まとめてみるような形もあるのではないか。グループインタビューのような形で、新しい風の人たちが参加して入れる状態を作れれば。アンケートをやらなくてはというのを１回無くしてもよいのでは。

委　　員　　プラットフォームの発起人会みたいなものもよいのでは。こういうことであれば、こういう人を呼んだ方がいいねといった形で。

副委員長　　ヒアリング自体が社会実験のようなイメージ。

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　自治会・管理組合からは、毎年来る人が変わるかもしれない。うまくいっている団体は、自治会とは別に企画グループのようなものがあり、メンバー固定で理事から何人かが必ず入るといった仕組みを持っている。やはり理事長とかが来てではなく、団地の中でコミットしてくれる人を出してもらえるようなことができた方がいい。

事 務 局　　中間答申では、協議会型プラットフォームについて、単に協議するだけではなく、実践もといった形だったかと思うが、そうした意味では、先ほどの議論にもあったように、新たな人たちにも入ってきてもらう必要があるし、肩書きのある人が代表で出るのではなく、出してもらえるのであればそういった気運の高い人を出してもらうというのはあるかと思っている。また、先程から指定地域共同活動団体ありきではないという話をさせてもらったが、一方でそれを考えると、今国の方で示されている類型は、いわゆる地域住民を中心として組織された団体を集めて始める方法と、そこに住所を有している個人を集めて始める方法との大きく二つがあり、そこに企業などがサブ的に参加者として入るというものが考え方として示されている。今まさにお話があったように、団体と個人のある種ミックスみたいなところもあると思っており、その辺りも新たなチャレンジの部分だと思ってい

る。

委 員 長　行政だと地域ごとに公平にやらなければとの思いがあるかもしれないが、全部違っていてもよいと思う。

事 務 局　やはり地域特性もあることから、そのとおりだと思っている。

委 員 長　ヒアリングができそうなところへは話を聴きつつ、アンケートについては、自治会、管理組合、学校へは全てに実施するか。書面は書面で書くのが大変な気もするが。

委　　員　今日はどこまで具体に決めていくのか。内容や対象、時期などの意見を出して事務局が持ち帰るのか、この場で決めてしまうのか。

事 務 局　宿題として持ち帰らせてもらい、委員長に相談させてもらうところもあるかもしれないが、基本的には意見を出してもらったものを事務局で引き取る形としたい。

委　　員　アンケートやヒアリングなど、そういった意見だったらやれそうなものを宿題で検討してもらい、その結果について次回報告してもらうイメージか。

事 務 局　そのとおりである。

委　　員　１０ページの過去の地域活動団体へのアンケートは、記名式で実施したものか。

事 務 局　別の部署で実施したものになるが、恐らく無記名だと思われる。

委　　員　今回の動きの中でのアンケートについては、こういう傾向の人ではこうだよねといったものではなく、この団体にはこういった問題があることを把握することが目的であれば、回答数が少なくともすごく有益になると思われるので、記名式が必須であると考える。

事 務 局　ご指摘のとおり、今回は統計的にというよりは、深掘りしていく形で考えており、記名式で実施したい。

事 務 局　ここで、次第１に間に合わなかったオブザーバーから発言をお願いしたい。

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　２月のエリアミーティングの後に、やってみたい企画が出てきて、それを先週の土曜日に「あたご縁日」というイベントとして開催することができた。当日は台風だったが、チラシを６００枚配って、小学生から高齢者まで合計５３名の参加があった。天気が良ければ２００名いったのではないかと思っている。今回は、東寺方で活動してきたＮＰＯ法人テラス、Wai（ワイ）というものづくりなどをしているお母さんたちのグループ、マッサージ・コーラルケアのグループの３つの新規団体が集まって実現されたイベントであった。新鮮なグループの集まりであったため、食べ物を作ったり、子どもと遊んだりマッサージをしたりして、自由な雰囲気があった。担い手を増やしたい想いがあり、振り返りや次回の作戦会議の場などを示していたところ、次回の１０月に向けて、新しい人からも２名参加したいという声掛けをいただいた。声掛けいただいたのは、地域でＡＩを教えたいという方とピアニストの方で様々な分野が共生する面白い交流拠点ができたのではないかと思う。今後の予定としては、次回のエリアミーティングを８月２２日に開催し、１０月には「あたご縁日」の２回目を行い、当事者たちの活動と次世代をつなぐことができればよいと考えている。

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　これまで出てこなかった人でも、何かやりたいと思っている人が確実にいるという思いを持った。そうした人たちをどういった接点で発掘していけるか。

委 員 長　まさに既存の団体の役員だけではなく、そうした方の意見も聴き取らないといけない。

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　従来型の自治会や、地域で頑張っている社会福祉協議会、地域包括センターなどのリーダーに声掛けをしてきているが、そうでない人たちが動けるような仕組みができると今回のような化学変化が起きるのではないかと感じる。

委　　員　ジャストアイディアではあるが、ツナコースの５０万円の提案がないのであれば、プロポーザルで団体のリストやその団体の概要ややっていることをいわゆる顧客データのようなものを作っても価値があるのではないか。このヒアリングもそのプロポーザルに含めてしまって団体の課題を聴くというやり方もあるのではと思った。

事 務 局　予算規律上の話はあるが、他で使える予算があればそういったやり方もある。

委　　員　今までは今回ヒアリングで呼ぼうとしている団体の層と、リストアップされていない若手の層と、手上げの個人一人や二人の小規模でやりたい層とがあり、その若手を掘り起こす中間支援団体の方が結節点として存在していることが必要であると改めて感じる。ただそうしたやりたい手上げの個人が、協議会型プラットフォームと聞いても、ゆるくやってみようという人からしたら引かれてしまう矛盾を感じる。少しづつ地域に関わってくれる個人がいて新しい風が吹く価値はあるが、協議会型プラットフォームのことを考えたときにそうした人たちは入ってもらいにくいよなと難しさを感じる。

事 務 局　まさに事務局想定もそこが非常に悩ましく、先ほどもなかなか団体に入るというのは別のハードルがあってというところや、逆に既存のプラットフォームで担い手不足で困っているところはもう入って欲しいということが第一になってしまい、そうすると一歩引かれてしまうことにもなりかねない。

委　　員　個人がやるからこその新しい活動が増えて、地域への愛着を持つといった本質が消えてしまわないようにするのは大変なこと。

事 務 局　そこがエリアミーティングを含め、中間支援団体に関わってもらっている部分は、ふらっと入れるような仕組みでやっている部分で、協議会型プラットフォームをどのように融合させていくのかといったところが非常に悩ましいが、チャレンジしていかないといけない部分であると考えている。

委 員 長　まちづくりと言うと、「僕らはまちづくりはやっていません」とか「そんなことのためにやっているのではない」といった感じの人が入ってくれると嬉しい。

委　　員　地域活動はどのように始めたらいいか分かりづらいが、そうした人をサポートするのは基本的には社会福祉協議会のボランティアセンターになるか。

事 務 局　協創推進室では、「地域デビュー手引書」という冊子を作っており、自分が何かやりたいと思っても、ある程度分野があると思うので、分野ごとにこのような団体がありますよと紹介するということは昔からやっている。どちらかというとリタイアされた方を対象にと想定していたものではあるが。

委　　員　サポートセンターみたいなところに常勤のスタッフがいれば、何となく「
あそこにああいう人がいるよね」といった形で人材データバンクのようなものがありそうな気がする。そういったものがあるのであれば、貝取・豊ヶ丘地区で活動している団体を調査してリスト化するとか、分野別に並べてみるとかできれば、協議会型プラットフォームに来てもらいたい人が見えてくるのではないか。

副委員長　例えば地域包括などプロの人に聴けば、最近面白い動きがあるよといった情報が集まって

いるのではないかということかと思う。ヒアリングの前に、そうした情報が溜まっていそうな団体を狙って取材してみるのもよいのでは。

委　　員　町田市の場合は、地域活動サポートオフィスがあり、そこにありとあらゆる個人、団体が相談に来て、情報が集まるようになっており、多摩市にもそうした組織があるのであれば、そこにデータが溜まっているのではないか。

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　社会福祉協議会にも情報はあると思うが、地域にいる市民で活動をサポートしている存在がちらほらいて、そういったポジションの人のところに情報が集まっている気がする。町田市は勉強会などで先行事例として取り上げられており、多摩市もそういう風になれるといいなと感じる。

３　その他

委 員 長　続いて、次第３の「その他」について、事務局より、何かあるか。

事 務 局　次回は９月１８日（金）午後７時から、次々回は１１月１３日（金）午後７時から、今回と同様に永山公民館視聴覚室で開催する予定。

委 員 長　質問等なければ、第１０回の多摩市自治推進委員会をこれで閉会する。

□　閉会